第五次 西東京市 地域福祉活動計画

【令和6年度～令和10年度】

概要版

令和6年3月

社会福祉法人　西東京市社会福祉協議会

地域福祉で大切なこと

地域福祉とは、市（行政）・社会福祉協議会・事業者・関係機関・市民等が協力して、**誰もがその人らしい生活を送れるよう、暮らしやすい地域づくりを進める取り組み**です。

助け合いの基盤となる考え方には、「自助」「互助」「共助」「公助」があります。

本計画では、このうち市民参加が不可欠な「互助」の取り組みについて、特に重点的に取り組むべきテーマ・実現方策を示しています。

重層的に組み合わさり、地域の課題解決に取り組む

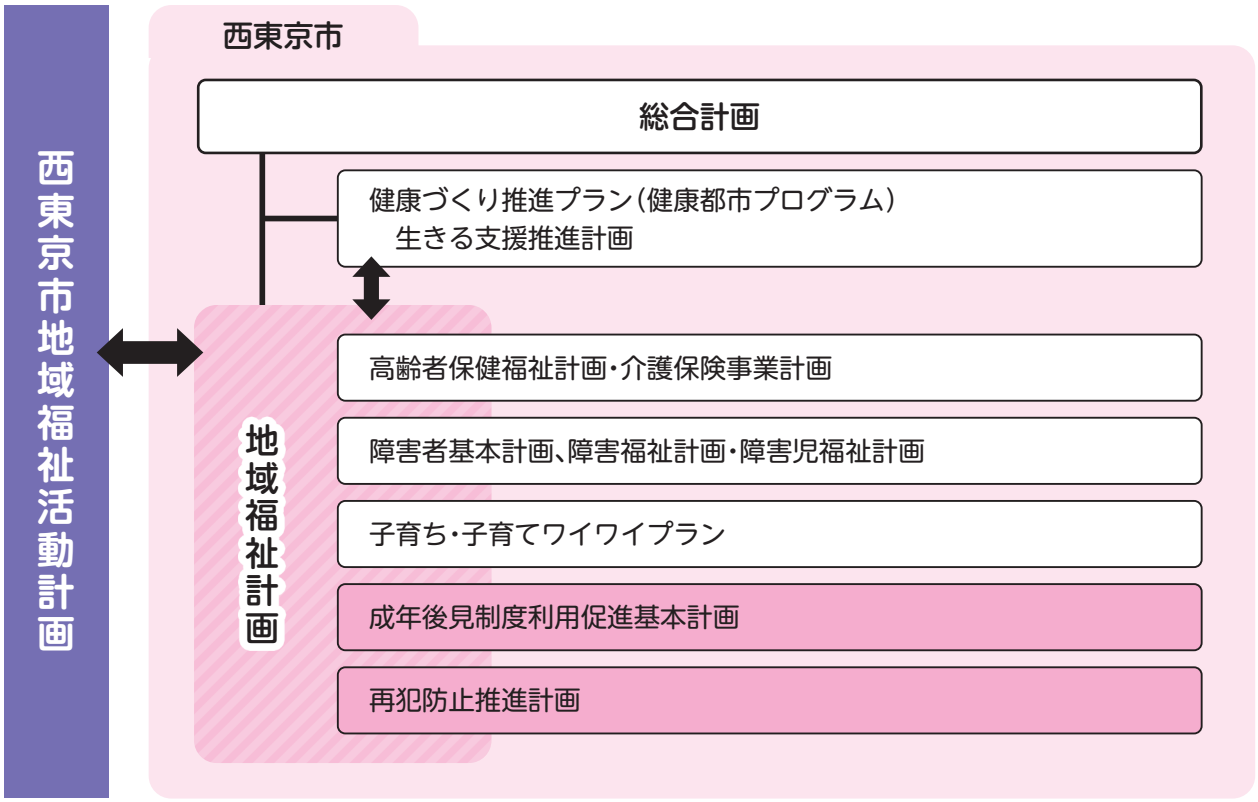
自助	互助	共助	公助
個人や家庭による自助努力	自治会、ボランティア、NPOなど、地域の中の市民同士の支え合い	制度化された相互扶助での助け合い	保健・医療・福祉などの公的な支援・サービス

計画の位置付け

「地域福祉活動計画」は、生活課題や地域における福祉課題を解決するための「基本目標」を定め、市民、活動団体、事業所、福祉・保健施設、行政、社協等が、それぞれの役割のなかで連携し、「地域ぐるみの福祉」を推進するための計画です。

この計画は、西東京市が定める「西東京市地域福祉計画」と連携する計画です。

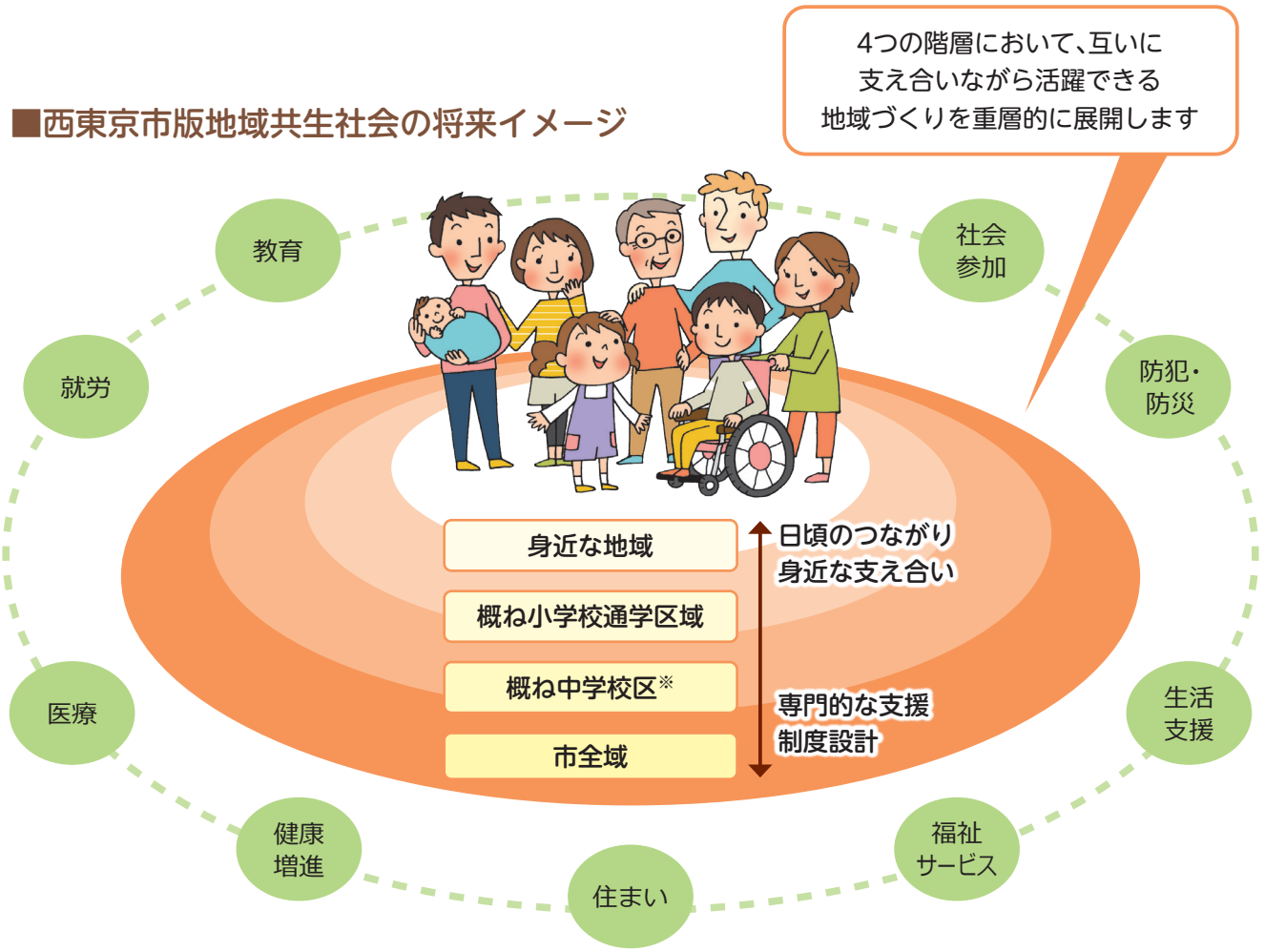
令和6年度から令和10年度までの5か年を計画期間としています。



西東京市版地域共生社会の実現

西東京市版地域共生社会とは、**市に住み・活動する全ての方が支え手側・受け手側に分かれることなく、市民主導のネットワーク活動を基盤に、互いに支え合いながら活躍できる社会**のことです。西東京市における実践方法・展開方法で「西東京市版地域共生社会」の実現に向け、取り組んでいます。

■西東京市版地域共生社会の将来イメージ



範囲	主な役割（市民・市（行政）・関係機関等がともに取り組む）
身近な地域	●日常的なつながり、支え合う活動の実施（近所付き合い、自治会・町内会活動等）
概ね小学校通学区域	●市民・団体活動を中心に、困りごとを早期発見するための活動を展開 ●自治会・町内会等が連携・協力した活動展開
概ね中学校区※	●相談機能、居場所等拠点機能の設置 ●地域性を活かした工夫（人材や既存施設の有効利用等） ●各小学校区の地域活動、地区活動が連携・協力した活動展開 ●地域福祉コーディネーターや地域協力ネットワーク等が連携した活動展開
市全域	●全般的な施策の実施（普及啓発、福祉教育、情報発信、新規事業立案、条例制定等） ●多分野・多機関・広域的なネットワークの構築・強化 ●専門職の確保・育成

※歩いて行ける距離を考慮した中学校を中心とした半径1,200m程度の範囲。なお、令和6年3月時点では、4圏域。今後、概ね中学校区での展開を検討。

第五次西東京市地域福祉活動計画の内容

基本理念

一人ひとりの個性をいかし、ともに～住みなれた地域

地域福祉を進める上での課題	課題への意見や取り組みのアイデア（策定委員会より）
●地域のつながりの希薄化、交流機会の減少 ●ゆるやかにつながることができる場づくり ●地域活動・ボランティア活動の（次世代の）担い手育成 ●気軽に、単発でできるなどの柔軟な活動手法の展開	●年代、属性（多様な性、国籍）を超えて交流 ●顔見知りの関係 ●自治会などに入っていなくても近所で集える ●持っているものを引き出し合いながらつながる ●ボランティアのバリエーションを増やす ●サードプレイス ●つながりを持ちにくい人でも行ける場所 ●マニアックな居場所 ●ゲーム、音楽を意識
●地域の課題に気づける人材育成（福祉意識の醸成） ●住民同士が課題を共有できる仕組みづくり ●既存のネットワークの連携	●素人でも専門家でもない人（頼りになる住民）を増やす ●自分たちで課題を見つける仕組みづくり ●相談の手前で背中を押してくれる人 ●当事者同士の相談の場・学ぶ場 ●「困った」「手伝うよ」という機会 ●職業訓練につながる場をつくる ●親族後見人の声を受け止める
●情報共有・発信のしかけ（ハブとなる人物、組織づくり等）づくり ●支援を必要とする人が情報を得やすくするための広報戦略	●情報収集につながる場 ●日常的に行くところでの情報発信 ●双方向の情報発信 ●地域協力ネットワークの活用 ●ソーシャルワーク的な情報の届け方
●社協の活動への理解促進 ●協力員の支援体制の強化 ●継続的な財源の確保	●広報戦略のようなスキルアップなどを目指してほしい ●若い世代にも興味を持ってもらう ●知られていなくてもったいない ●住民懇談会を魅力的なものにして会員を増やす ●ネットワークが壊れないように支える ●イメージを変えていくというニュアンスがあるとよい

支え合い、みんなでつくる私たちのまちで住み続けるために～

基本目標	目標達成に向けた主な取り組み
基本目標1 誰もがつながり・集い・地域の力になる ～自分らしくいられる場と 地域へのゆるやかな参加～	①多様性があり、ゆるやかにつながる地域をつくる ②気軽にボランティアができる機会をつくる ③多様な居場所をつくる ④多世代の力を引き出すしかけをつくる **特に社協が担うこと** ★地域でつながるためのしかけをつくる ★多様な機関が協働するためにコーディネートをする
基本目標2 地域みんなで発見・ なんでも受け止め・解決する ～困りごとを 解きほぐし、支える体制づくり～	①おとなりさんに関心をもって、気づきを声にする ②地域の課題に気づける人同士のネットワークをつくる ③集まって助け合うきっかけをつくる **特に社協が担うこと** ★住民や専門機関と協働し、解決を促す ★助け合う人同士の調整役としてサポートする ★成年後見制度の利用を促しコーディネートする
基本目標3 誰にでも必要な情報が届く 仕組みをつくる ～情報提供の充実・伝わるしかけづくり～	①誰もが情報の発信人になる ②情報を得にくい人に届けるためのアプローチをする **特に社協が担うこと** ★情報が届きにくくなっている人へアプローチする ★支援を必要とする人を見つけるための体制をつくる
基本目標4 西東京市スタイル2.0を 支える頼れる社協になる ～西東京市社協の基盤・運営強化～	**特に社協が担うこと** ①頼られる社協職員を育てる ②SNSとアナログを組み合わせた広報戦略を立てる ③安定的な財源の確保 ④信頼される組織運営

目標達成に向けた主な取り組み

基本目標 1
誰もがつながり・集い・地域の力になる
～自分らしくいられる場と地域へのゆるやかな参加～

人々の社会生活や価値観の変化、新型コロナウイルスの影響による交流機会の減少などにより、地域のつながりの希薄化が課題となっています。

地域の中には孤立している人、つながりを持ちにくい人などもいますが、誰もが自分に合った形で人とのつながりを持ち、集い、地域への参加ができるように、多様な活動を展開し、選択肢を増やすことが重要です。

目標達成に向けた主な取り組み

①多様性があり、ゆるやかにつながる地域をつくる
②気軽にボランティアができる機会をつくる
③多様な居場所をつくる　④多世代の力を引き出すしかけをつくる

■関連するSDGs

基本目標 2
地域みんなで発見・なんでも受け止め・解決する
～困りごとを解きほぐし、支える体制づくり～

個人や世帯が抱える生活課題は複合化・複雑化していると言われており、8050問題、引きこもりなどの複数分野にまたがる課題や、外国にルーツを持つ市民の生活困難、ヤングケアラーなど新たな視点として取り組むべき課題も生じています。

一つの組織や専門機関だけで支援をしたり解決したりすることが難しくなっており、様々な立場の人・機関が連携して地域の困りごとを見つけ、解決に向けて取り組んでいくことが重要です。

目標達成に向けた主な取り組み

①おとなりさんに関心をもって、気づきを声にする
②地域の課題に気づける人同士のネットワークをつくる
③集まって助け合うきっかけをつくる

■関連するSDGs

基本目標 3

誰にでも必要な情報が届く仕組みをつくる
～情報提供の充実・伝わるしかけづくり～

あらゆる情報があふれる時代になっているなか、必要な情報が必要な人に行き届いているかが課題となっています。

人と人とのつながりや信頼関係が、情報を届けるうえでも重要となります。誰もが情報を届ける意識を持ち、SNSなどの双方向のコミュニケーションツールを活用しながら、必要な情報が必要な人に行き届くこと、支援が必要な人の情報を、助ける人同士で適切に共有し、交流や助け合いの活動に生かすことが重要です。

目標達成に向けた主な取り組み

①誰もが情報の発信人になる
②情報を得にくい人に届けるためのアプローチをする

■関連するSDGs

基本目標 4

西東京市スタイル2.0を支える頼れる社協になる
～西東京市社協の基盤・運営強化～

西東京市社協は地域福祉の推進を目的に日々様々な活動に取り組んでいますが、その協力員減少、財源確保が課題となっています。

西東京市社協の活動を継続するにあたり、活動そのものの認知度や理解の促進、安定的な財源の確保が重要となっています。

目標達成に向けた主な取り組み

①頼られる社協職員を育てる
②SNSとアナログを組み合わせた広報戦略を立てる
③安定的な財源の確保　④信頼される組織運営

■関連するSDGs

連携 協働 解決 がキーワード 「西東京市

「西東京市スタイル2.0」における4つの事業

事業	事業の概要	複雑な課題に対する連携イメージ
ほっとネット 関わる市民 ほっとネット推進員 	地域福祉コーディネーターを配置し、市民や活動団体、関係機関を結び、地域の課題をみんなで解決するためのネットワーク（ほっとネット）をつくるために中心的な役割を担い、このネットワークを推進する人の確保・育成にも取り組んでいます。	「ほっとネット」の地域福祉コーディネーターは世帯が抱えている課題を受け止め、関係機関やほっとネット推進員などと支援体制を築き、課題解決に取り組みます。
ふれまち 関わる市民 住民懇談会世話人、 助け合い活動 	ふれまちでは、地域課題の話し合いの場「住民懇談会」、住民同士の助け合い「ふれまち助け合い活動」、誰もが集える地域交流の場「地域活動拠点」、の3つの事業を展開しています。	「ふれまち住民懇談会」においては、個別課題を地域全体の課題として捉え、解決するための方策について話し合い、住民同士で支援できることに取り組みます。

スタイル2.0」

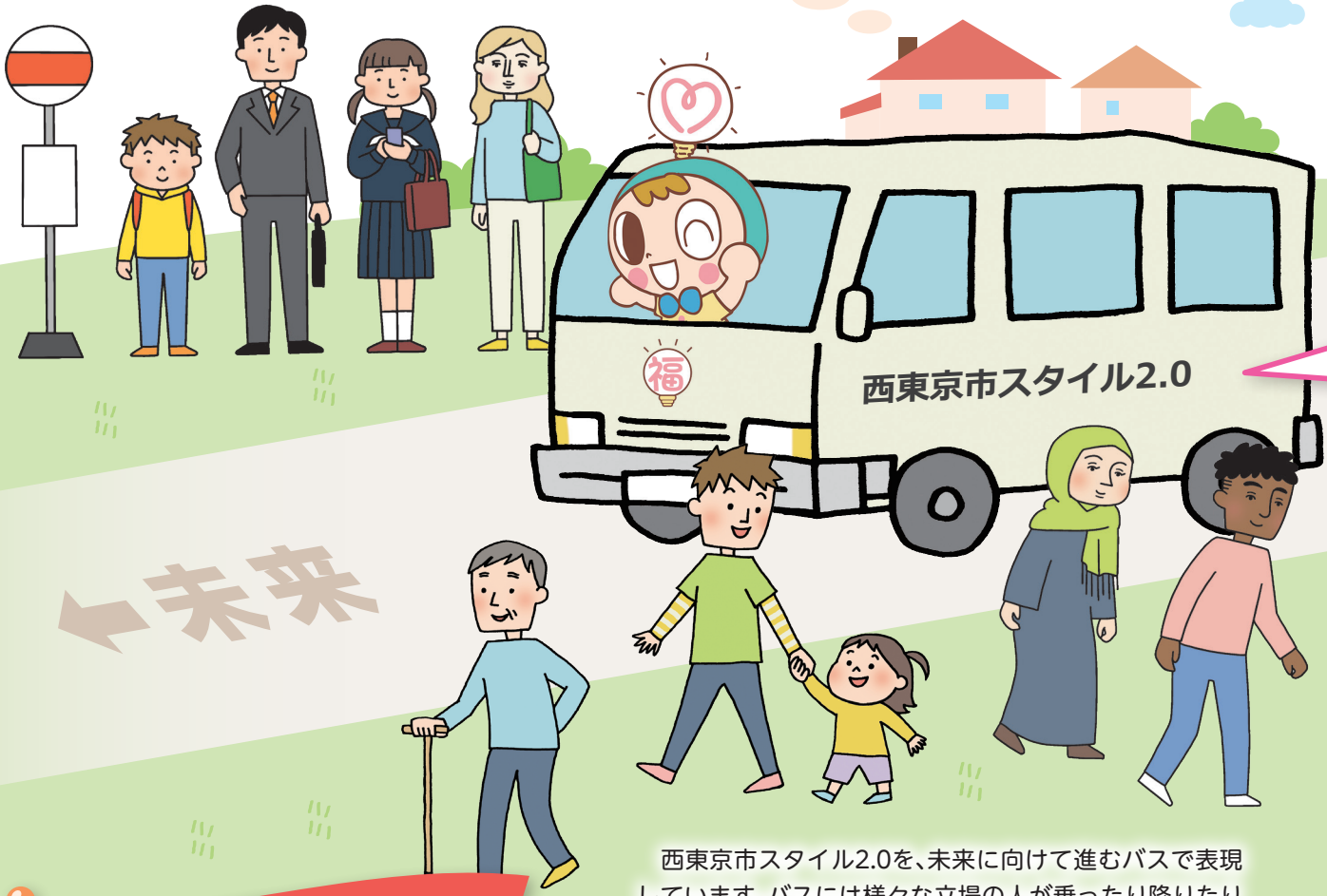
事業	事業の概要	複雑な課題に対する連携イメージ
りんく 関わる市民 ささえあい協力員・ 訪問協力員・協力団体 	生活支援コーディネーターを配置し、介護状態にならないように予防活動や担い手の育成、一人暮らしの高齢者の見守り活動などに取り組んでいます。	解決となる福祉サービスがない場合、りんくの「生活支援コーディネーター」は地域資源の情報収集や社会資源の開発に取り組みます。
ボラセン 関わる市民 登録ボランティア （一般・特技ボランティア） 	ボラセンは「つなげる、いかす、うみだす」の3つの取り組みを通じ、自らの可能性を現実のものにできるような地域社会をめざしています。ボランティア活動を広く進めるため、人材発掘と育成を行い、ボランティアをしたい方と必要とする方をつなぎます。	「ボラセン」では、課題に関するテーマで講座を企画したり、課題解決のためのボランティアの育成に取り組みます。

西東京市スタイル2.0のイメージ

本計画の推進と西東京市版地域共生社会の実現に向けて、西東京市社協が取り組む仕組みが「西東京市スタイル2.0」です。個別支援にとどまらず、地域課題の解決に向けて、連携・協働していくのが、西東京市スタイル2.0の目指すところです。

より市民との関わりが大きい、ほっとネット、ふれまち、りんくと、ボラセンの4つの事業が中心になって進めていきます。

社協内だけでなく、市民や活動団体、西東京市、関係機関、民生・児童委員協議会、西東京市社会福祉法人連絡会、さまざまな方々と協力して地域課題の解決に取り組みます。



西東京市スタイル2.0を、未来に向けて進むバスで表現しています。バスには様々な立場の人が乗ったり降りたりしながら、それぞれの距離感で関わります。

4つの事業が車輪となり、土台として進めます！

ほっとネット

地域福祉コーディネーターを配置し、市民や活動団体、関係機関を結び、地域の課題をみんなで解決するためのネットワーク（ほっとネット）をつくるために中心的な役割を担い、このネットワークを推進する人の確保・育成にも取り組んでいます。

ふれまち

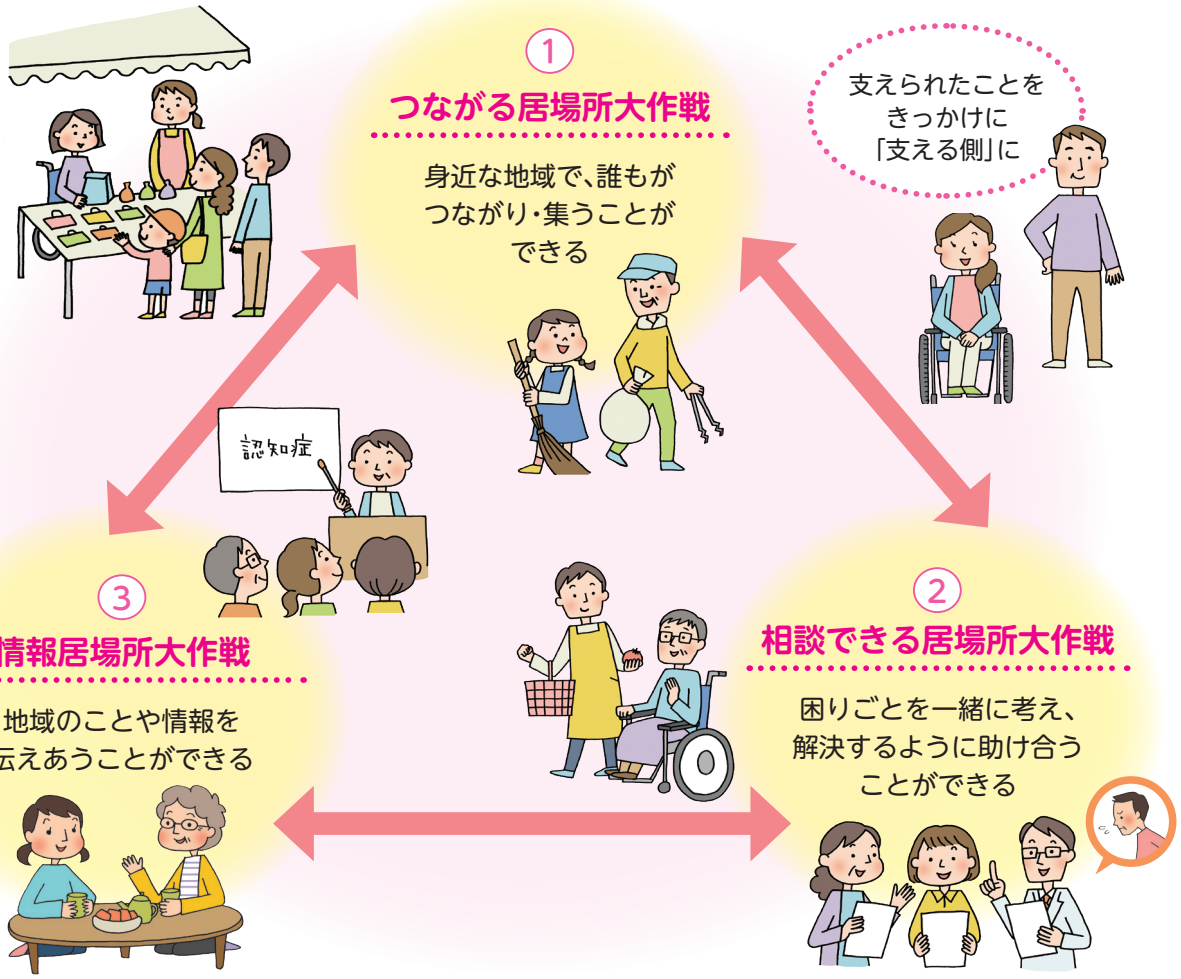
ふれまちでは、地域課題の話し合いの場「住民懇談会」、住民同士の助け合い「ふれまち助け合い活動」、誰もが集える地域交流の場「地域活動拠点」、の3つの事業を展開しています。

●「西東京市スタイル2.0」が目指す地域とは

西東京市スタイル2.0が目指す地域とは、①身近な地域で、誰もがつながり・集うことができて、②困りごとがあったら一緒に考え、解決するように助け合うことができて、③地域のことを知ることや情報を伝えあうことができる地域です。また、はじめは「支えられる側」であった人が、地域の中で受け入れられることにより「支える側」になることも目指しています。

地区ごとに配置された職員が、社協が持つ拠点や住民が主催しているサロンなどの居場所を活用して、個別課題や地域課題の解決に向けて取り組むことを想定しています。

地域のあらゆる居場所…社協の拠点やサロン、井戸端会議など



りんく

生活支援コーディネーターを配置し、介護状態にならないように予防活動や担い手の育成、一人暮らしの高齢者の見守り活動などに取り組んでいます。

ボラセン

ボラセンは「つなげる、いかす、うみだす」の3つの取り組みを通じ、自らの可能性を現実のものにできるような地域社会をめざしています。ボランティア活動を広く進めるため、人材発掘と育成を行い、ボランティアをしたい方と必要とする方をつなぎます。

地域の皆さまとともに協力して計画を進めます！

●協働による計画の推進

ふれあいのまちづくり住民懇談会、ほっとネット推進員、民生委員・児童委員、社会福祉法人連絡会等関係機関、団体と連携を図りながら行います。

また、広報紙やホームページを利用し、広く市民への計画の周知に努めます。

●計画の進行管理体制

本計画の進行管理は、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）を繰り返すマネジメント手法である「PDCAサイクル」の理念を活用し、行います。

地域のことが、世界のことにつながりますSDGs（エスディージーズ）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

計画の本編には、関連する「SDGs（Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標）」のマークを示しています。

地域の皆さんが共に支え合い、いつまでも安全・安心なまちで暮らせるような地域をつくるために地域活動に取り組むことで、地球上の誰一人として取り残さないというSDGsの目標と深くつながるものと考えています。

外務省SDGsホームページ
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html

第五次西東京市地域福祉活動計画　概要版
発行年月：令和6年3月　発行：社会福祉法人　西東京市社会福祉協議会

「西東京市地域福祉活動計画」の詳しい内容はこちら！
https://www.n-csw.or.jp/aboutus/rinen/